林産物の対日輸出促進 アルバータ州からミッション

カナディアン・ロッキーなどの山岳地帯を擁するアルバータ州は、州面積の約56%、日本全体の面積とほぼ同じ37万平方キロが森林地帯。資源の62%はスプルース（モミ）や米マツを中心とする針葉樹、38%が落葉樹のポプラで、木材の純販売可能量は25億立方メートル、年間許容伐採量は2,620万立方メートルとなっている。

同州では1987年夏から林産品の対日輸出に力を入れ始め、1年半で輸出量をゼロから年間およそ3千万ボードフィートに増やした。金額にして約1,500万ドルである。

この勢いに乗って、林産物の対日輸出をさらに増大し、また日本企業誘致の可能性も探るため、昨年11月にはフォードボトン州森林省大臣を団長に、林業関係の官民代表者で構成するミッションが来日、日本の大手住宅メーカーのツーバイフォー工場やプレハブ工場、住宅展示場などを訪問した。民間からは、アルバータ林産物輸送業協会、アルバータ林産物協会、ブルーリッジ・ランバー社、アルバータ・ホワイトウッド・インダストリーズ社、ノーザン・フォレスト・インダストリーズ社など2協会、14社が参加した。

モントリオールで対アジア ビジネス会議

カナダは数年来、環太平洋諸国との関係強化を図ってきたが、貿易や投資などビジネス上での関係を一層緊密にするため、2月27日から4日間、環太平洋（ビジネス）機会会議（PROC Ⅵ）をモントリオールで開催する。日本からはカナダ大使館のトレレバン公使参事官とスペンサー総領事、および高山成雄・日本電子機器輸入協会会長がスピーカーとして参加する。

晴海の国際食品展 8回目の参加は圧巻32社

人気が年々上がる一方の国際食品展（3月7日～11日）に、今年はカナダから32社が大挙参加する。出品の種類は養殖サケ、キャンディ、牛肉、豚肉、ターキー、食肉加工品、水産物、蜂蜜、冷凍野菜、フローズンフレンチフライ、ビール、ワイン、ソフトドリンク、メープルシロップ、パスタ、チーズ、ウイスキー、リキュール、ウォッカ、ピーチシュナップ、野生果実のジャム、ワカサギ、冷凍および活ロブスター、スプリング・ウォーター、ニシンやサーディン等の缶詰類、スモークサーモン、サーモンキャビア、サーモンジャーキーなど。

カナダ通信産業の雄ノーザン・テレコム社が昨年12月7日、関西で初めて通信セミナーを行った。場所は大阪総領事館。3回に分けてノーザンテレコムが開発した最新式の機器を紹介したが、会場は毎回あふれるほどの参加者をみた。

カナダ王室造幣局から プラチナ・コイン発行

カナダのメープルリーフ金貨は世界で最も人気のあるコインだが、カナダ王室造幣局は、純プラチナ製コイン「プラチナ・メイプルリーフ」4種（写真）を発行した。

プラチナ・メイプルリーフは、純度が99.95%の地金型コインで、毎日のプラチナ価格にスライドして価格が変わるので、メイプルリーフ金貨と同じく投資用としての価値が大きい。種類は1、1/2、1/4、1/10オンスの4種類で、額面はそれぞれ50、20、10、5ドル。デザインは金貨と同様、表がエリザベス女王、裏はカエデの葉。日本では田中貴金属から発売される。

主なカナダ関係行事日程

3/6～1週間	カナダ・フードフェア（東京・赤坂プリンスホテル）
3/7～11	国際食品市（東京・晴海）
3/14～17	インポートフェア「ヘルスケア'89」（東京池袋・サンシャインシティ）
3月中旬	カナダ・フードフェア（西友ストア、大阪・都ホテル）
3/18～	カナダ・フードフェア（明治屋）
4/17～20	原子力プロジェクト・シンポ（東京・海運クラブ）
4/18～23	東京国際見本市（東京・晴海）
4/28～5/3	グッド・リビング・ショー（晴海）
5/3～6	カナディアン・インターナショナル・ファー・フェア（モントリオール）
5/24～27	ライフスタイル'89（東京池袋・サンシャインシティ）

88年度日加研究賞は一橋大学に カナダ研究助成金の受賞者を発表

カナダ大使館では、日本における日加研究促進のため、さまざまな助成金プログラムを実施しているが、1988年度の審査結果がこのほど発表された。

●日加研究賞（CJRA）　まず、賞金額（700万円）が最も大きい日加研究賞には、一橋大学の田中浩教授を中心とするグループが、筑波大学、北海道大学、神戸大学に次ぐ4番目の受賞者となった。テーマは、「先進工業化社会に関する日加比較研究」。「技術革新と雇用問題」、「老齢化社会の政治」、「日本の地方自治とカナダの連邦制」、「米・日・加の経済関係」—という4つのケーススタディをもとに、両先進工業国に共通する問題を理論的、比較論的に研究しようというもの。研究結果は出版される予定。カナダ側からヨーク大学のジョン・セイウェル教授が研究に助言する。

●カナダ研究開発助成金（CSDP）
日本の大学におけるカナダ研究の態勢をさらに発展させる学術的研究活動が対象で、助成額は出版費用も含めて、最高2万5,000ドル。筑波大学地域研究所、明治大学国際交流センター、北海道大学法学部、新潟大学法学部、関西学院大学が受賞した。

●カナダ研究出版助成金（EPP）
日本の大学教員にカナダまたは日加関係について研究し、論文を発表してもらおうというもの。受賞者は、藤田直晴（明治大学文学部）「カナダにおける地域および都市開発の研究」、今井敏信（弘前大学教養部）「カナダの主要農業地帯における土地利用の変化」、小林順子（清心女子大学）「ケベックの『静かな革命』時における教育改革」、森川真規雄（同志社大学文学部）「カナダにおける香港移住者の同化パターンの研究」、関口礼子（図書館情報大学）「オンタリオ州およびその周辺における教育の歴史」、立山龍彦（東海大学文明研究所）「カナダにおける犯罪更正制度」

●カナダ講座充実助成金（FEP）
大学でカナダ講座をさらに充実させるため、カナダで資料収集や研究を計画している大学教員に与えられる。長谷川瑞穂（東洋女子短期大学欧米文化学科）、林上（名古屋大学教養学部）、松平誠（立教大学社会学部）、三橋節子（青山学院大学国際経済学科）、沢田克巳（新潟大学法学部）、成嶋隆（同）、山中燁子（北海学園大学教養部）、奥村皓一（大東文化大学国際関係学部）が受賞。